

5月上旬の田植えから1.5ヶ月が過ぎ圃場のコシヒカリも順調に生育し稲丈が25～30cmに、1株当たりの茎数も20～25本に分けつ生長してきました。

この時期に必要な農作業として中干し作業と合わせて溝切り作業があります。

以前にも紹介しましたがこの作業を行うことで、次のような効果があるといわれています。

- 1, 田植え後圃場に水を湛えたままでは、土中に酸素不足が生じ、すき込んだ稲藁等から硫化水素ガス等が湧いてきて成育中の稲に根腐れ被害を与えてしまいます。圃場を一定期間乾燥させることで土中に酸素を供給し根を元気にします。特に当農園では他にも有機肥料を多く使用していますのでこの効果を期待しています。
- 2, 茎の無効分けつ(良質の稲穂にならない茎)の抑制にも効果があるといわれています。
- 3, 節間の生長抑制(稲丈の抑制)と、根を地中深くまで伸ばすことで未利用の肥料を吸収できることと、秋の収穫時における倒伏防止にも期待できます。
- 4, 圃場の土面が硬化することで、秋の収穫作業が容易になります。

当農園では6月16日から水入れを止め、圃場の水抜きを行い、中干しを開始しました。

18～20日にかけて新型の溝切機を使用し溝切(江立て)作業を行いました。

新型乗用溝切機での江立て作業

今年も定点観測を開始しました



圃場に生えてくる雑草としては、田植え1週間後から水の取り入れ口を最初に生えてくるのはヒエで、これは先月号でも述べましたが、当農園として1回だけ使うノビエ専用の除草剤で何とかできますが、その後生えてくる、ホタルイ、オモダカ、クサネム等については順次稲株の間から発芽してきますので、これらの雑草との対策が秋の収穫期までつづきます。

稲の間から発芽し始めたホタルイ

オモダカも発芽開始

畔道の除草は草刈機で



○ **オモダカ**は丈は20~30cm程ですが、稲株の間に水面が見えなくなるほどに繁茂し、肥料を吸収するため厄介な雑草です。

○ **ホタルイ**はイグサに似た雑草でカヤツリグサ科ホタルイ属の植物で、秋には稲丈程に生長し、先端に2~3個の小穂を付け、この種を圃場にまき散らすことで、毎年増殖するため、手強い雑草の1種です。

発行者: 〒944-0023 新潟県妙高市西条755
妙高西条農園長 池田博子
☎ 0255-72-3497 fax 0255-72-2908
URL: <http://www.kanta.jp> E-mail: ikedata@kanta.jp
当農園へのご意見、感想をお待ちしています。